



地域の「家守り棟梁」になりたい社長が届ける...

# ジェントル通信

3月号

## 相見積もりは浮気と一緒？

弊社を含め3社で見積依頼し検討されているお客様から

「結局どの工務店で決めたらいいかわからなくて…」

「どう決めたらいいか教えてもらえませんか？」

と先日質問をいただきました。

「その質問、私に聞きますかあ？」と笑いながら、僕はお客様にはこう説明しました。

「もちろん弊社で選んでいただくのが一番有難いですが、今から教える3つのことをしっかり考慮したうえで選んでくださいいね！」

### ①価格 ②提案力 ③対応力

#### ①価格 ↓安すぎず、高すぎず

\*安すぎると職人さんの給金にしわ寄せがいくので、手抜き工事につながる可能性が高い。

#### ②提案力 ↓お客様の要望がしっかりと反映された見積もりなのかどうか？

\*希望がそのまま叶わない場合でも、代案が用意されているかどうか、など。

#### ③対応力 ↓思い切って今までの失敗事例を聞いてみる。

\*その失敗にどう対応したのかがポイント。「私、失敗しないんで」と答えた場合は米倉涼子以外、恐らくウソです(笑)。

ただ、それらを考慮しても、それぞれの工務店の見積もりの書き方、提案される細かな工事内容が違うため、結局のところ比べきれないかもしれません。

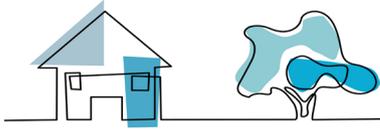
そんな時は今回のお客様のように、相見積もりを白白して、すべてをさらけ出してしまおうような工務店が、何でも相談しやすく、結果的に話し合いや工事もスムーズにいく可能性が高いのではないかなと思っています。

とはいえ、相見積もりは正直あまりいい気分ではありません。浮気されているのを分かっているながら、知らないふりをしてお付き合いを続けたいといけないなんて、こんなにつらいことはありません。頻繁に続く心が折れそうになります(笑)

相見積もりが当たり前の業界なので仕方ないのですが、いろんな会社に見積もりを依頼しても混乱するだけなので、せめて浮気相手は2人までにしてください(涙)。



日々の工事を  
アップしています



# 今月のお客様相談

～築50年 10年間空き家の修繕工事～

70代のご夫婦と息子さん。

30年前から貸し出していた築50年超の家が、現在10年間空き家になっているのでこの機会にリフォームし、再度貸し出したいというご相談。

古家のリフォームはどこまで工事するかによってまったく値段が変わってくるため、ご自身が住まわれない場合「価格を抑えて最低限の工事だけして欲しい」という依頼が多い。

とはいえ、築50年を超えてくると特にお金がかかる…。

お風呂・キッチン・トイレ・洗面器を交換し、壁のクロス張替・シロアリ防除など、その他の工事も含め500万以上の見積もりとなった。

経験上、賃貸で貸し出す家にここまで費用を出される方は少ない。

恐るおそるお客様に報告。

「最低限でもこれぐらいの金額になります。近隣環境から多く見積もっても月10万円ぐらいの家賃が相場、単純計算で5年以上入居者さんが住んでくれないと利益は出てこないですね…」

「それでもリフォームされますか？」

初期費用を抑えてできるだけ早く利益が出るように考えるのが一般的ですが、お客様の返答は、

「まず、この家を息子に譲って賃貸管理の経験をさせてあげたい。あと当時家を建ててくれた大工さんがとても親切で思い入れがありますので、この家は壊さずに維持しておきたいんです。昔の思い出も記憶に残ってますし…」

と語られ、

- ・当時の大工さんに今でも感謝しているということ
- ・家は当時の記憶が詰まった大切なものということ
- ・家を大事にメンテナンスしていくことで、子どもへも想いを繋いでいけるということ

にハッとしました。

工務店の仕事はただモノを造っているだけではなく、想いのこもった仕事はお客様の生活や思い出まで創れるんだと再認識し、家に携わる者としてより一層気が引き締まる想いになりました。

現在リフォーム続行中です。バリバリ働いております！

